

イロハ

i r o h a

Color のコトが色々わかる。



N°4

2018. SUMMER

「どれだけ」を「どこ」へ？

58 いろいろなコトバ vol.3 「腹黒い」

60 いろいろな色をコーディネートする
色相環編

65 量と位置から考える彩りかた

71 世界の色紀行 4th trip ドイツ編



【今号の表紙】

童謡「チューリップ」の歌詞には、色んな色のチューリップが登場しますが、「どの花みてもキレイだな」と締められています。この歌詞には「何事にも良いところがある」という作者の思いが込められているそうです。互いの個性を認め合う、人として忘れたくない精神ですね。

表紙の写真「大通公園（チューリップ）」
撮影：木村珠美

企画・編集：木村一希（アイワード プリプレス部） イラスト：木村一希、松谷留里（アイワード プリプレス部）

参考文献：佐藤好彦 著『デザインの教室 手を動かして学ぶデザイントレーニング』株式会社エムディエヌコーポレーション／2008
都外川八恵 著『配色&カラーデザイン デザインラボ』ソフトバンククリエイティブ株式会社／2012
城一夫 編著『徹底図解 色のしくみ』新星出版社／2013
『GOLDDUST 富むメディア』（Web）／『女教皇の聖壇』FC2（Web）
株式会社カインドウェアホームページ『フォーマルウェア豆知識』（Web）
『ぼうずコンニャクの市場魚貝類図鑑』（Web）／『All About』（Web）

いろいろな コトバ



このコラムでは、色を使った
言葉の謎を解き明かしていきます。

「腹黒い」

選挙の時には、「国民の皆様のために」と演説しておいて、当選後は、そんなことを忘れてしまったかのようになる人を「腹黒い」と言いますよね。

要するに、表向きはいいことを言っておきながら、腹の中では、違うことを考えている。この表現は、特に「悪たくみ」をしている場合に使われますが、この言い回しの由来はなんでしょうか。

インターネットなどで調べると、すぐに分かってしまうことなので、すでに「存じの方もいるかもしれませんが、これは「サヨリ」という魚に由来するそうです。

サヨリは体長・40センチほどの細身の魚で、下あごが細長く針のように突き出しています。高級魚として知られるサヨリですが、光沢があって美しい外見とは

裏腹に、腹を開けてみると、その中身は真っ黒なんです。転じて冒頭で例に挙げたような人を指して、「腹黒い」というようになったそうです。

……はい、これで今回のコラムはおしまい、としようとしてもできませんが、いささか物足りないのも、もう1つの疑問にもお付き合いいただきましょう。

「腹黒い」という表現では、「黒」は悪い意味で使われていますが、これはどうしてなんだろうと思ひ、これについても調べてみました。

黒は、喪に服する場面でも使われますが、この風習はかなり古くからあったようです。しかし、日本の喪服の歴史を辿ると、明治時代に黒で統一されるまでに、喪服の色は「白」と「黒」を行ったり来たりしていたことが伺えます。最終的に

は、西洋の喪服の色であった「黒」が採用され、現在に至っているそうです。この辺の経緯についてまで詳述すると、長くなってしまいますので、それはまたの機会としておきましょう。

いずれにしても、黒という色が、「死」を連想させる、不吉な色であるというのは、「死者の埋葬」から連想される「死」↓「土の中」↓「暗い」↓「黒」というイメージも背景にあるのかもしれない。

また、この背景にあるのは、それだけではなく、古くから「丑三つ時に化け物や幽霊が現れる」というような言い伝えがあることからも分かるでしょうか。暗闇の中では、目の前にもあるものすら正体が分からないので、本能的に「黒」は「不吉」と感じるのかもしれない。

でも、「黒」は悪い意味でしか使われ

ないのかというと、そうでもありません。例えば、「黒」を「他の色に染まらない」という意味で、誠実な印象に当てはめ、「正装」とする文化もあります。黒猫は、一般的に不吉なイメージを持たれることが多いですが、黒い招き猫には「魔除け」の意味があります。また、会社の決算では黒い数字が喜ばしいですね。

こんな風に、色には、単純に1つの側面で良し悪しを判断できないところがあります。

とにかく、過剰にいいことばかりをいう人がいたら、「腹黒い」可能性があるもので、注意しましょう。まあ、私は、本心しか語りませんが（↑そういうアタガが一番怪しいッ!）。

腹黒くないワロ



ムー〜んじゅん
じゅんじゅん

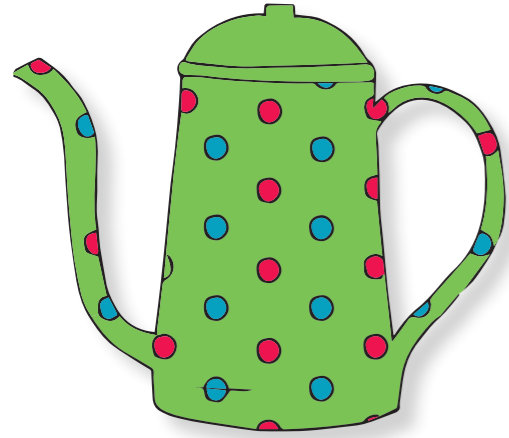
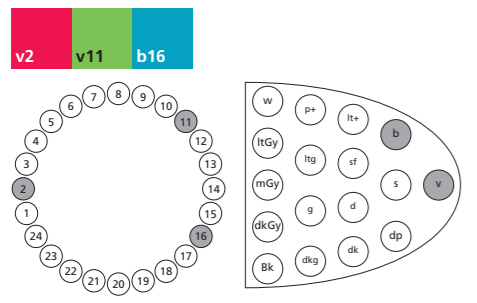


いろいろな色をコーディネートする

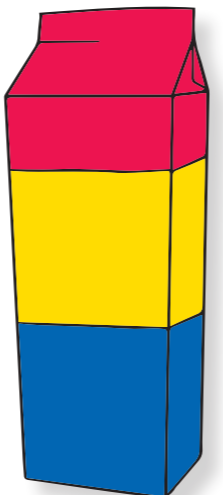
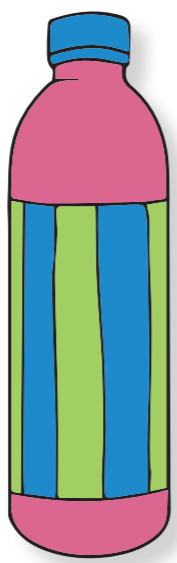
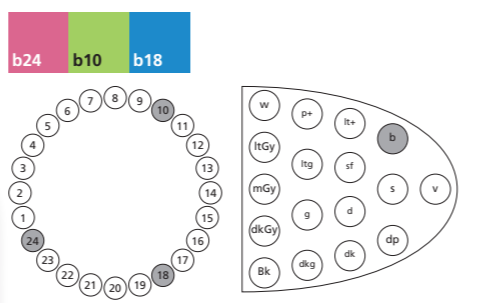
今回は、スイス生まれの画家・ヨハネス・イッテンが、1961年に考案した「色相環を軸に考える配色手法」をご紹介します。厳密に言えば、イッテンが考案した色彩調和論は12色の色相環にもとづくものですが、この記事では、分かりやすさを重視し、PCCSの色相環・トーンマップを使って解析します。

Illustration ● Ruri Matsuya

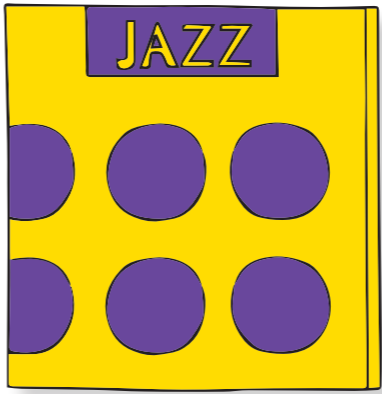
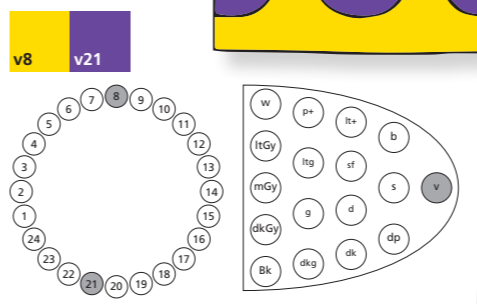
7



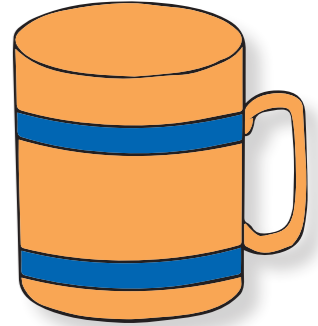
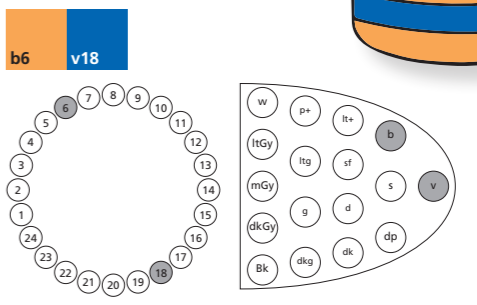
5



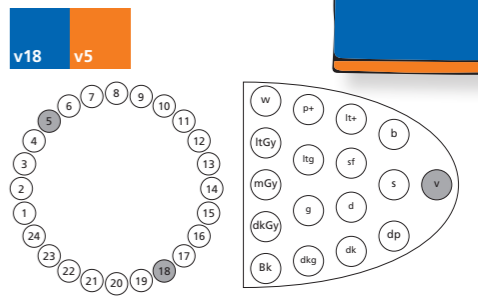
3



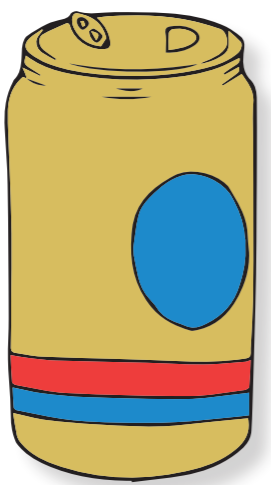
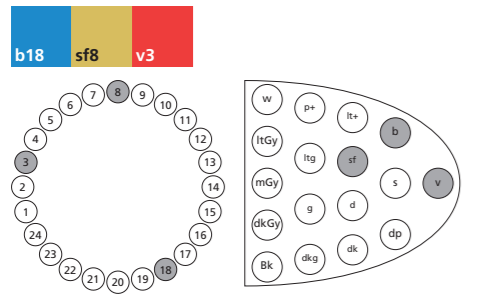
1



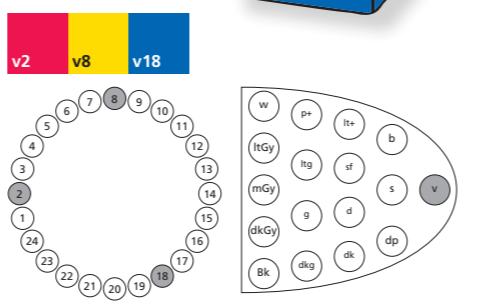
2



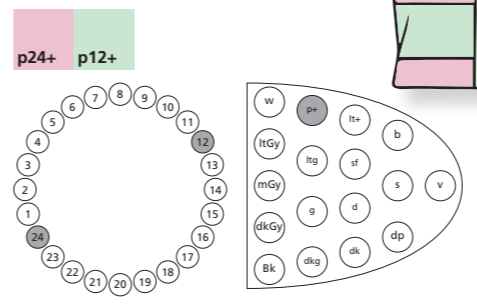
8



6



4



SPLIT COMPLEMENTARY / TRIADS

スプリットコンプリメンタリー/トライアド

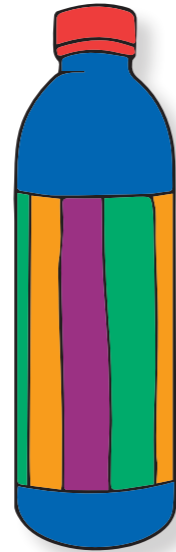
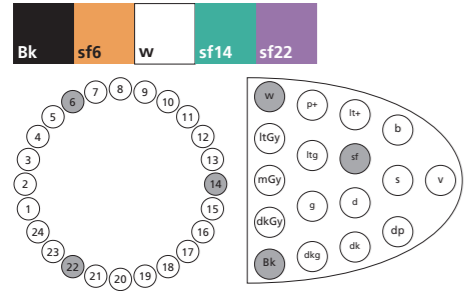
スプリットコンプリメンタリーは、補色関係にある一方の色を左右に分裂させる配色手法で、色相環上の3点を線で結ぶと二等辺三角形になります。
 なお、分裂させる際の色相差は、左右に1つずつか、2つずつとします。
 トライアドは色相環を3等分にする配色手法で、色相環上の3点を線で結ぶと正三角形になります。いずれもトーンに制限はありませんが、無彩色を使用することはできません。

DYADS

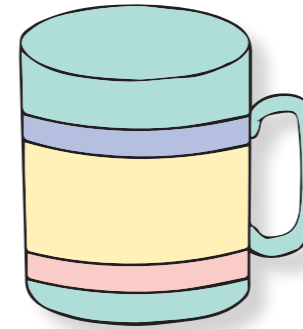
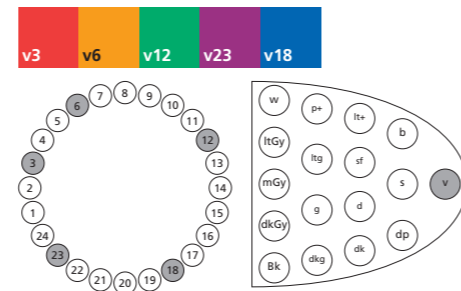
ダイアード

色相環上で対照的な位置にある2色を組み合わせる配色です。対立する色同士を組み合わせるため、動きが感じられダイナミックな演出ができます。この傾向は、色相の効果が発揮されやすい、高彩度なトーンであるほど強くなります。なお、使用する色のトーンに制限はありませんが、「ビコロール配色（本誌3号P52参照）」とは違い、無彩色を使用することはできません。

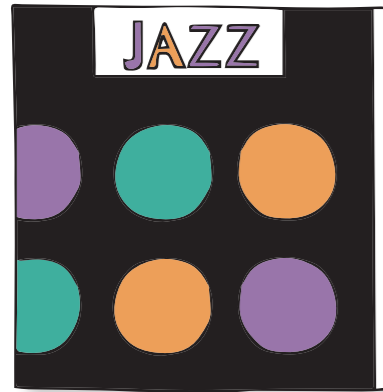
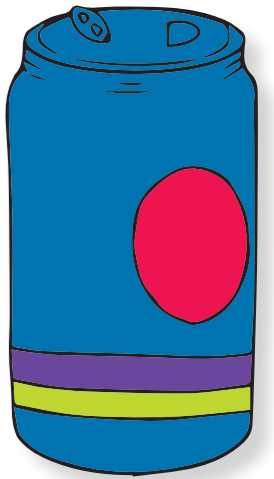
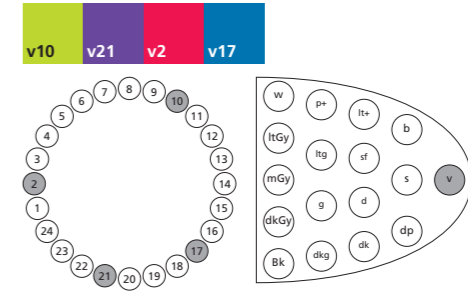
15



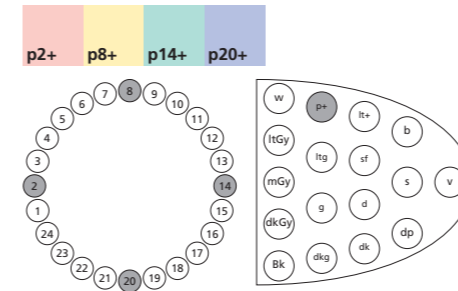
13



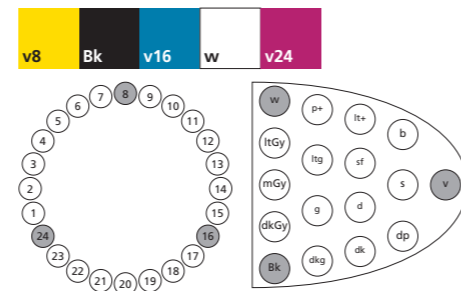
9



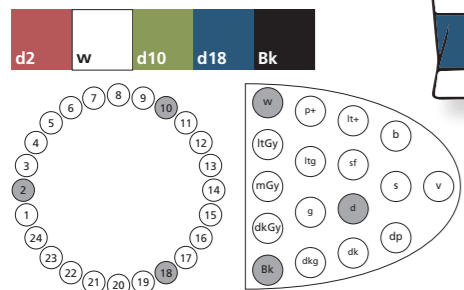
11



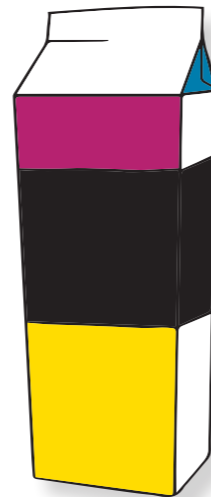
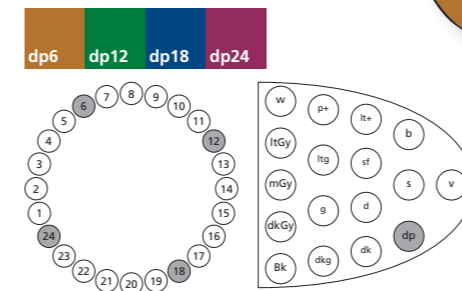
14



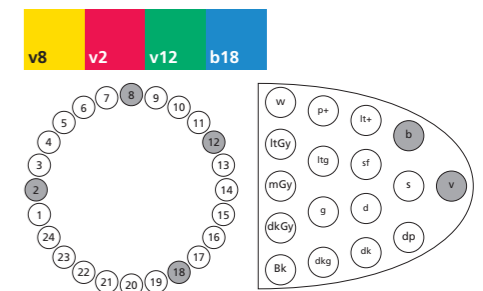
16



12



10



PENTADS ペントード

TETRADS テトラード

色相環を5等分にする配色手法で、色相環上の5点を線で結ぶと正五角形になる配色を指します。

しかし、PCCS色相環のように、正確に5等分できない色相環の場合は、

トライアドに白と黒を組み合わせた配色も含まれます。

トライアドの明快な印象に白と黒を加えることによって、スッキリとしたイメージを演出することができます。

色相環を4等分にする配色手法で、色相環上の4点を線で結ぶと正方形になります。

ですが、必ずしも正方形である必要はなく、長方形や台形になる配色もこれに含まれます。

各色の色相差は6(色相環上で線を結ぶと90°の開きがある)で、これを「中差色相配色」と言いますが、中国の五色*、韓国の伝統衣裳、日本の十二単など、アジアの伝統的な色使いにも多く見られます。

*五色(ごしき):「万物は“陰・陽”の二氣、“木・火・土・金・水”の五行で成り立っている」という、古代中国の思想「陰陽五行説」に由来する。五行を色で表したのが「五色」で、「木=青、火=赤、土=黄、金=白、水=黒(玄)」の5色で構成される。

頼もしき仲介人

愛すべきムダ

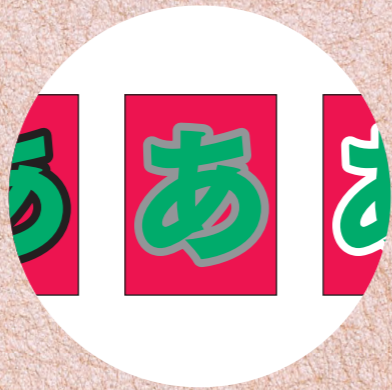
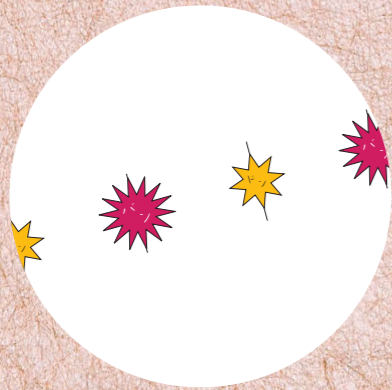
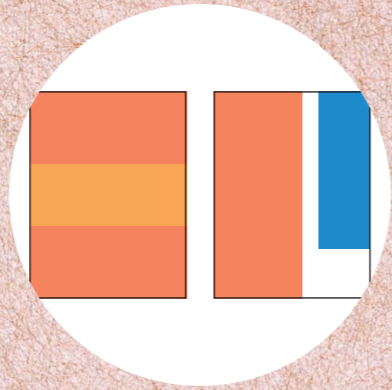
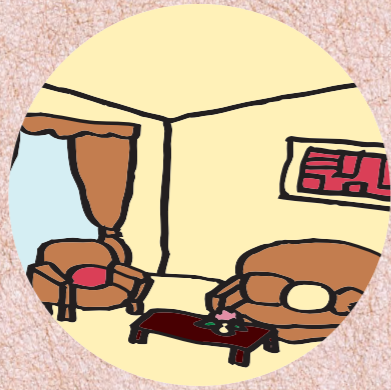
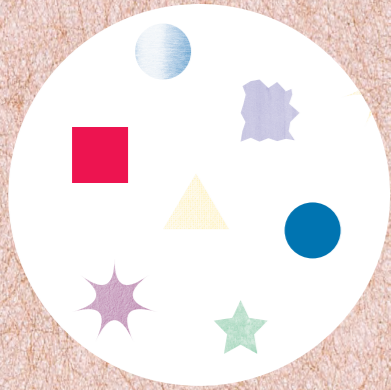
メインとサブ

「どれだけ」を「どい」へ？

イロイロを構成する成分

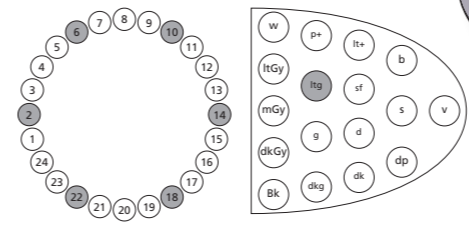
彩りかた

量と位置から考える



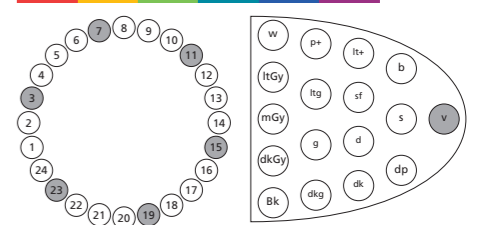
19

ltg2 ltg6 ltg10 ltg14 ltg18 ltg22



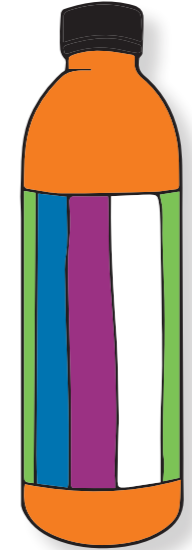
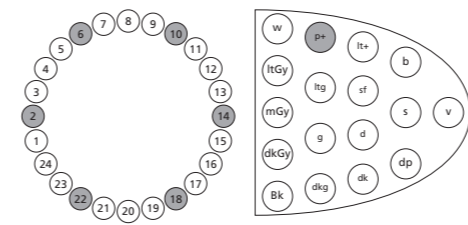
17

v3 v7 v11 v15 v19 v23



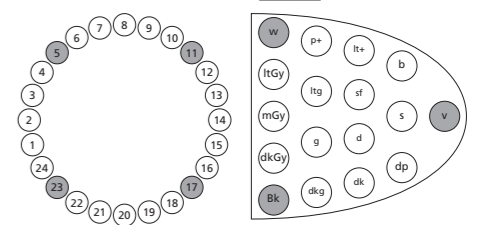
20

p2+ p6+ p10+ p14+ p18+ p22+



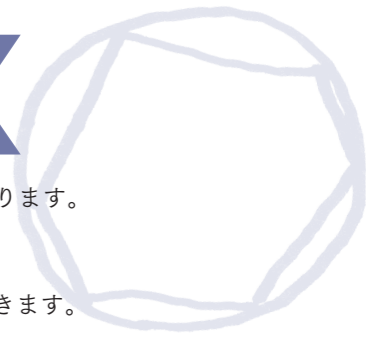
18

v5 v11 v17 v23 w Bk



HEXADS ヘクサード

色相環を6等分にする配色手法で、色相環上の6点を線で結ぶと正六角形になります。各色の色相差は4となり、これは「中差色相配色」にあたります。また、テトラードに白と黒を加えた場合も、この配色手法に含まれます。色数が豊富で変化がありながらも、統一感のあるイメージを演出することができます。



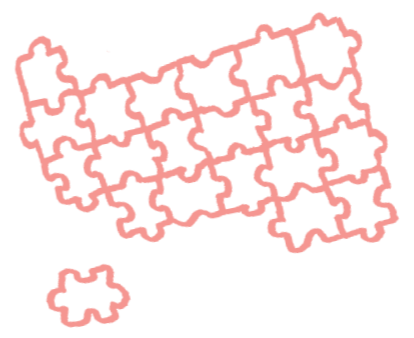
イロイロを構成する成分

私たちが目にするすべてのものには、それに伴った

- ①色 (Color)
- ②質感 (Texture)
- ③形 (Form)

の3つの要素があります。これらは「デザイン(造形)の3要素」と呼ばれるもので、あらゆるものを設計するうえで、重要な要素です。

これまでも学習したとおり、すべての「色」は、さまざまな波長の光です。光が物体に反射・透過し、私たちの眼に入ってきて、色を感じるわけですが、そこには必ず質感が伴います。つまり、どのような質感の物体から、反射・透過をして色が伝わるかによって、見え方や感じ方が変わると言うことです。



さらに、その物体がどのような形状をしているかによっても、印象は大きく異なります。

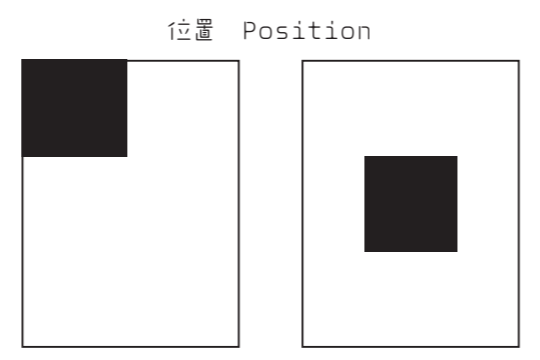
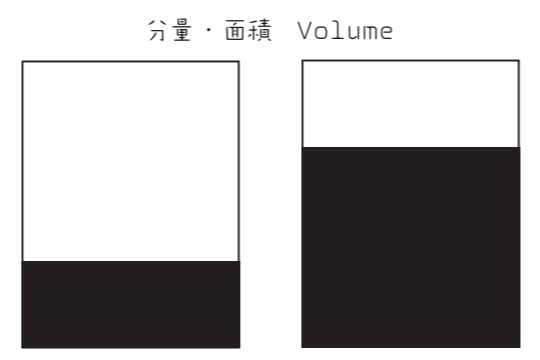
これらの3要素の他に、デザインにおいて、重要な要素がさらに2つあります。それは、

- ④分量・面積 (Volume)
- ⑤位置 (Position)

と言う2つの要素です。①③が同じ条件であっても、④⑤の違いによって、印象が大きく変わることがあります。そういった意味では、最初に挙げた3要素と同等に重要であると言えるでしょう。

これらの5つの要素を操作し、目的にあった設計を実現するのが、いわゆる「デザインする」ということです。

+ 2つの要素



色・質感・形だけではなく
これら2つの要素にも左右される

「どれだけ」を「どこ」へ?

これらの5つの要素の中で、今回の記事では、特に「④分量・面積」「⑤位置」の2つの要素に重点をおきます。これは、配色を考えるうえで、非常に重要です。

インテリアやファッションのコーディネートで、一般的に使われる配色の手法として、これらの要素を扱うものがあります。それが、

- 「ベースカラー(基調色)」
- 「アソートカラー(配合色・従属色)」
- 「アクセントカラー(強調色)」

の3つです。これらは、おもに色の面積比によって使い分けられる名称で、それぞれの面積の割合は、以下のようになっています。

ベースカラー 全体の約70%

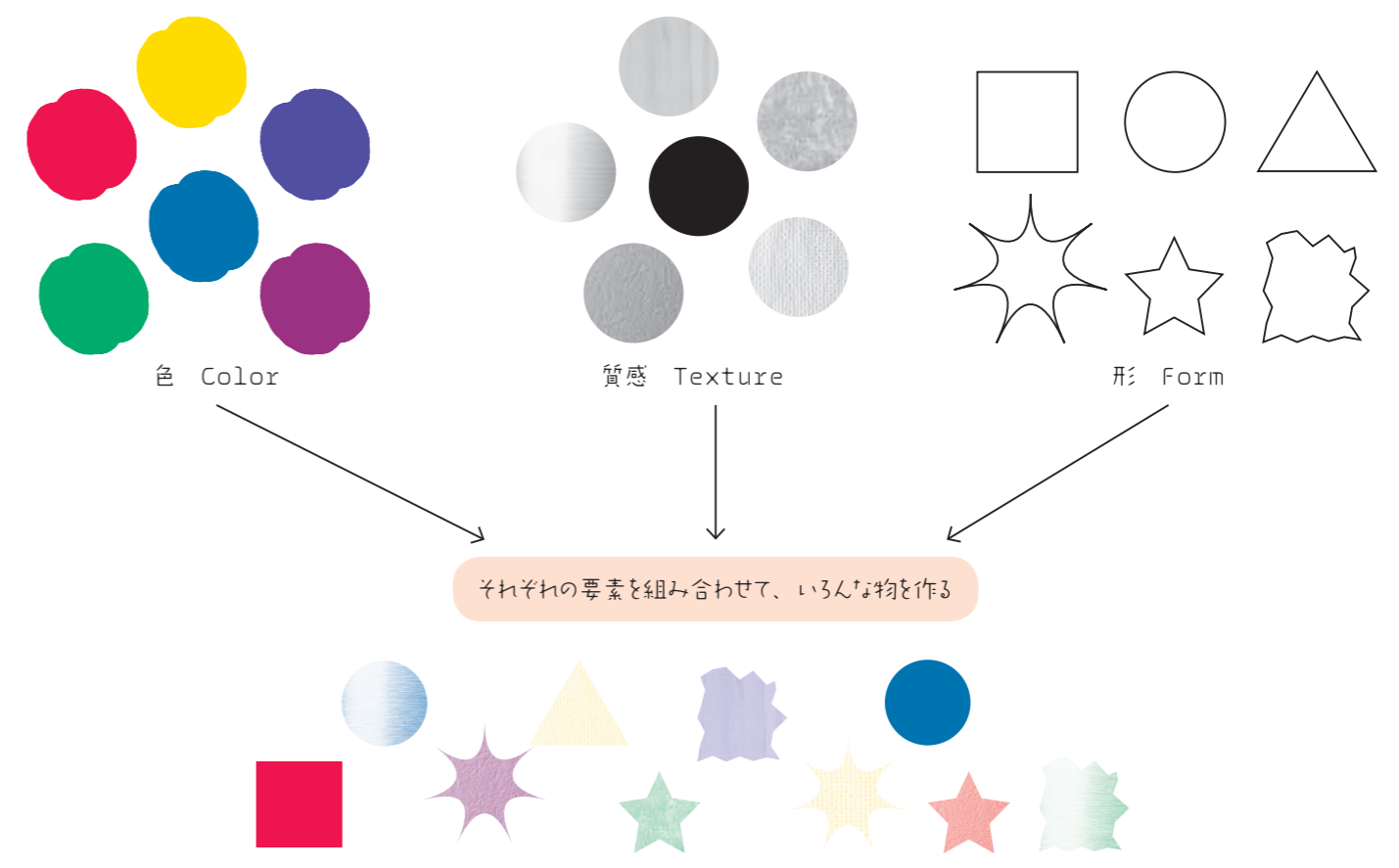
アソートカラー 全体の約25%

アクセントカラー 全体の約5%

分かりやすくするために、インテリアに置き換えてみましょう。部屋の中にもっとも面積が広い、床・壁・天井が、ベースカラー、その次に面積が広い、家具やカーテンがアソートカラー、部屋に飾る絵画や観葉植物、小物などの類がアクセントカラーとなります。これは色の面積を考える際に、効率よくまとめることができる、優れた考え方です。

ちなみに、インテリアの世界では、「アクセントカラーを使用する箇所は、2か所、もしくは偶数が安定する」と言われているようです。

デザイン(造形)の3要素

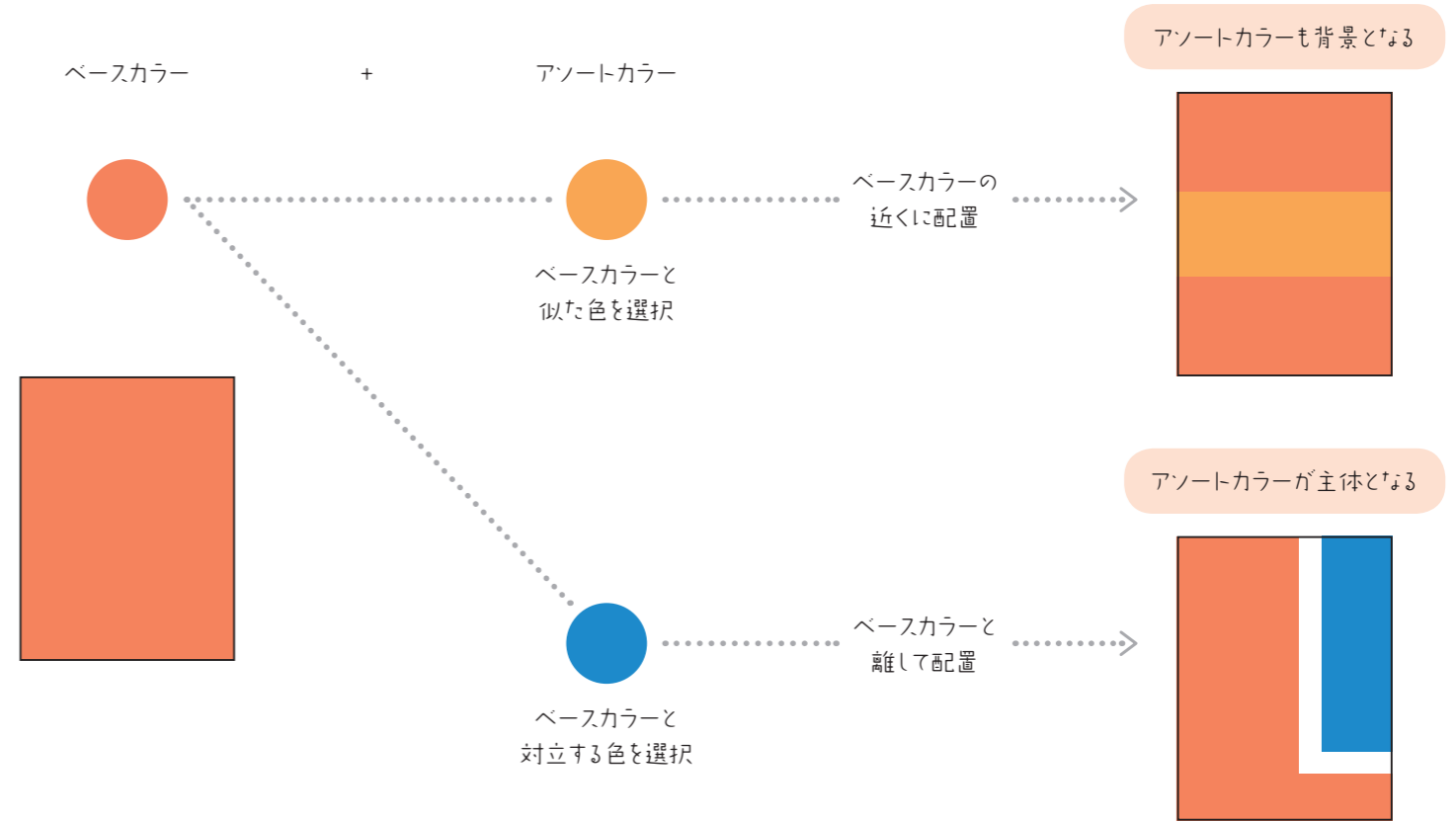


ベースカラー・アソートカラー・アクセントカラー

- ベースカラー
- アソートカラー
- アクセントカラー



アソートカラーの役割の変化



アソートカラーも背景となる

アソートカラーが主体となる

メインとサブ

ベースカラー（基調色）は、その名の通り、全体のベースとなる色のことです。もともと面積が広い色となるので、ここで使用する色が、全体の印象に対して大きく作用します。

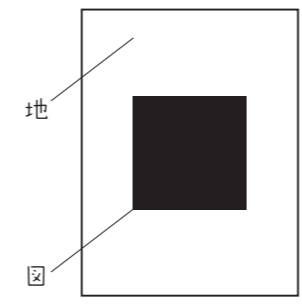
これに対し、ベースカラーの補助的な役割を果たすのが、アソートカラー（配合色・従属色）です。補助的とは言っても、選択する色・位置関係によって大きく性質が変化するポジションとも言えます。

ベースカラーに対して、近い色・位置関係をとる場合には、ベースカラーと同様に、背景の役割を果たします。逆に、対立する色・位置関係にする場合には、アソートカラーが主体のイメージとなります。主役から脇役まで幅広く演じられるポジションが、アソートカラーと言えるでしょう。

厳密に言うとうと、あらゆるデザインは、この2つの役割があれば成立します。実際に、2つの色だけで作られたものは、世の中に多く存在します。

ただし、2つの役割で表現する場合には

図と地



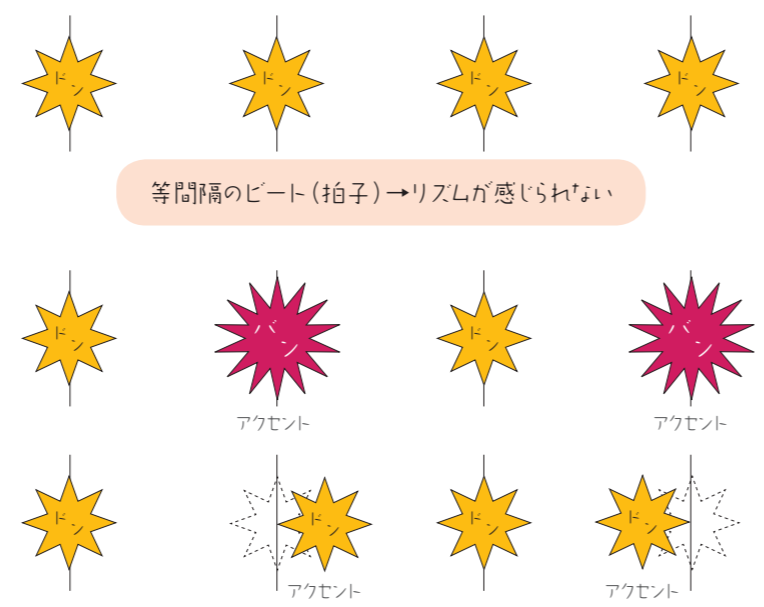
は、必ず「ベースカラー＝背景」「アソートカラー＝主体」という役割分担に限られます。例えば、スミ1色で印刷された印刷物は、大抵の場合、白（印刷されていない部分）が背景となり、黒が文字や図形、画像などの主体となります。こういった関係を「図と地」と言います。

ベースとなる背景が「地」、その背景から分離して認識できるものが「図」です。先ほどのスミ1色の印刷物で言うと、印刷されていない部分が「地」、印刷されている部分が「図」となります（黒地に白い文字という構成であれば、関係は逆になります）。

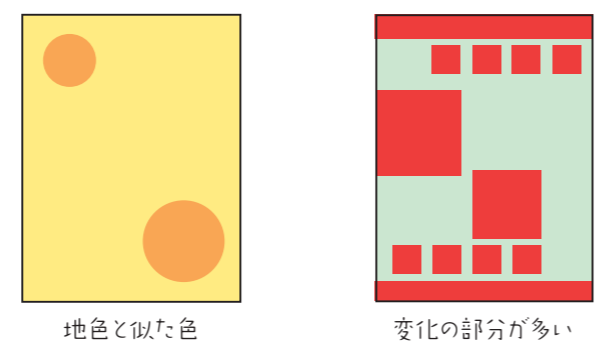
ちなみに、この考え方は、他のものにも置き換えることができてもいいです。例えば、音楽は「伴奏」が「地」、主旋律が「図」、ラーメンは「スープ」が「地」、「麺」が「図」、「水戸黄門」は「助さん・格さん」が「地」、「黄門さま」が「図」ですね。最後の例はちよつと飛躍し過ぎかもしれませんが、このように人間が作ったものはどんな分野のもでも似たような考え方で作られています。



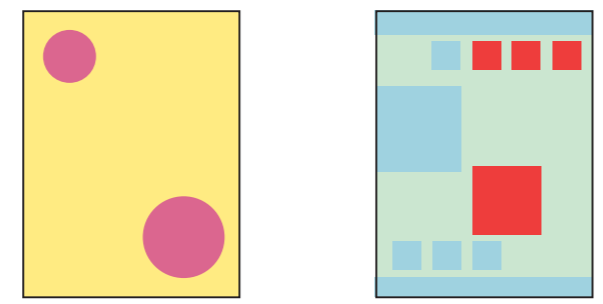
アクセントの例



アクセントの法則



アクセントに「よら」ない



適度な変化がアクセントになる

愛すべきムダ

先ほどは、「ベースカラーとアソートカラーだけでも、デザインは成立する」と述べました。ではアクセントカラー（強調色）は、不要なのではないでしょうか。極端なことを言えば、そのとおりです。確かに、アクセントカラーは不可欠な存在ではありません。それでは、例えば、みなさんにおける「無駄」とはなんでしょうか。

誤解を恐れずに言えば、現代の人類のほとんどは、無駄だらけの生活をしています。本来なら、生物が生きていくのに

必要なのは、「食べて、寝る」だけのことで。それさえあれば、生きていけるのですから、本当に必要なのは、この2つだけなのです。

でも、あなたもこの最低限のものだけでは満たされずに、多くの無駄なことに時間を費やしていますよね。ですが、もしも「食べて、寝る」以外のすべてのものが、私たちの生活から奪われてしまったら、どう感じるでしょうか。きっと、多くの人は、悲しくてなんの気力もなくなるのではないかと思います。つまり、

アクセントカラーのように無駄なものこそ、多くの人にとっての「刺激」や「楽しさ」があるのです。

「アクセント」は、音楽の世界では「強調される音」のことを言います。不思議なこと、等間隔で刻まれる打楽器が、それだけでリズムを感じさせることはできません。一定のパターンの中で、1つの音の間隔をずらしたり、強く叩くことで、リズムを感じさせることができるのです。この時に、通常のパターンと呼



ばれます。

色の世界でも、同じくアクセントカラーには「変化させる」役割があるので、ベースカラーやアソートカラーとは、印象が異なる色を選択します。アクセントの注意点としては、「多用しすぎるとアクセントにならない」という点が挙げられます。私たちが生活に程よくアクセントを取り入れて、生き生きとした毎日を送りたいものですね。

世界の色紀行

4th trip ドイツ編

世界には、それぞれの国の異なった環境や文化を反映した、さまざまな色彩文化があります。バラエティーに富んだ色彩文化のことを探ってみるだけでも、世界を旅するような気分が味わえますよ。



緑とともに生き、敬う文化

この地域には森林の樹木・精霊を信仰するゲルマン民族を祖先とする人が多く住んでいます。森の緑に畏敬を払う文化は、現在のドイツにも色濃く残っており、ゴシック風の聖堂・教会にも植物をモチーフにした装飾や聖人像が見られます。

また、5月1日（メーデー）には、古代ゲルマンに由来する五月祭*1が催されますが、この風習は、後にヨーロッパの各地に伝播し、春の訪れを祝うお祭りとして定着しています。

メイポール（五月柱）



札幌の大通公園にもある。姉妹都市であるミュンヘンから寄贈されたもの。

自然に調和する都市づくり

ゲルマン民族の緑を敬愛する精神は、教会や祭事にも引き継がれているのではなく、日常生活の中にも見られます。中でも街の景観、特に建物の外壁は、森と調和する色彩のみを用いることが決められています。なお、景観の



形成や街づくりについては、住民参加のもとで行われることが、法律で定められているという徹底ぶりです。

建物に使う煉瓦・屋根瓦は、その土地で取れた土から作られるので、1つの街の中では、同じ素材の同じ色を使った外観となります。こうすることによって、1つの街の中では、景観が統一され、地域ごとに異なった景観が形成されるのです。

東洋磁器にならった白い磁器を開発

17世紀、ヨーロッパで東洋磁器が注目され、各地の王侯貴族たちは、宮殿内に収集した東洋磁器用の部屋を設け、そのコレクションを競い合っていました。

そんな中、ドイツ・ザクセンの国王、アウグスト2世は自国で東洋磁器のような白磁を製造することを思い付きます。アウグスト2世は1701年、錬金術師のヨハン・ベトガーにこの使命を与え、ベトガーは8年の歳月をかけて、これを実現しました。

この時に作られた白磁が、ヨーロッパ初の硬質磁器で、マイセン地方で生産されることから、マイセン磁器と名付けられました。その後、白磁は国内のみならず、ヨーロッパ全土に普及します。

ブルーオニオン



マイセン磁器の名作。中国の磁器を模して作られたが、モチーフとしてあしらわれていたサクロガタマネギのような形になっていたことから、この名前が付けられた。

*1) 五月祭

夏の豊稔を祈念する祭りで、豊稔の神・マイアに供物が捧げられる。国によって、祈念のしかたは異なるが、ドイツでは、広場に緑の葉で飾り付けをしたメイポール（五月柱）を建てて行われる。

頼もしき仲介人

アクセントカラーのおもな効果は、単調な配色に変化を与え、全体を引き締めることです。これと似たような役割を果たすものとして、セパレーションカラーがあります。

セパレーションカラーは、ベースカラー・アソートカラーの対比が強すぎる場合

・ベースカラー・アソートカラーの関係が曖昧で、ぼんやりした印象になる場合に使用し、その面積は、アクセントカラーと同様に、控えめにします。また、アクセントカラーには、「強調」や「変化」させる役割があるため、比較的彩度の高い色が選択されることが多いですが、セパレーションカラーは、無彩色か低彩度の色に限定されます。

さらに、セパレーション（Separation: 分離）の名の通り、ベースカラーとアソートカラーの間で、調整の役割を担うために、使用する場所は色と色の間に限定されます。

セパレーションカラーは、料理でいうと、水のような役割です。味の異なる料理でも、間に水で口直しをすることによって、私たちは一度にさまざまな味を楽しむことができます。これと同じように、一見無理な組み合わせの配色に感じられても、すぐに諦めたりせずに、ぜひセパレーションカラーを取り入れてみてください。

セパレーションカラーの効果

ベースカラー



アソートカラー



対比が強すぎるため
ギラギラして見づらい



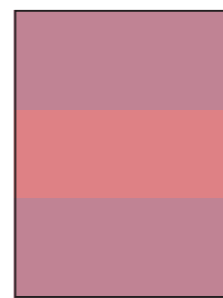
セパレーションカラーによって調整することができる



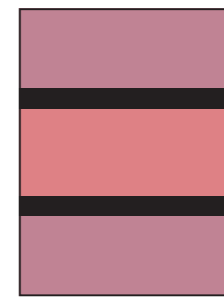
ベースカラー



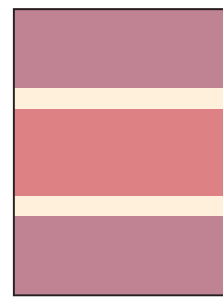
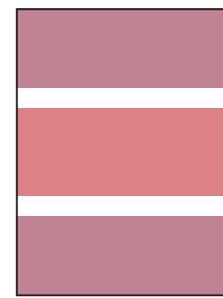
アソートカラー



調和しているが
ぼんやりした印象



セパレーションカラーによって引き締めることができる



おわりに

前号までは、「色の調和」が話題の中心でしたが、今回は、それとは逆に「対比する色を扱う手法」をご紹介します。いかがだったでしょうか。

音楽の3大要素は、「律動(リズム)」「旋律(メロディー)」「調和(ハーモニー)」で、前回までの記事が「コード」などの「ハーモニー」の理論とすれば、今回の記事は「リズム」に当たるものです。

一見、無茶な組み合わせの配色でも、工夫しだいでは、見え方も大きく変化します。ですから、ここに紹介した手法を存分に利用して、自分にしかできない配色にチャレンジしてほしいです。

* * *

本誌は、今号をもって休刊となりますが、最後に『たのしい組版』も含めると1年7か月におよぶ学習を通じて感じたことをお伝えします。

不思議なもので、物事というのは、1つの軸で測ることができるほど、単純なわけではありません。「色」という分野、1つに絞って見ても、さまざまな要素が絡み合い、成り立っているということが、本誌を通じて、垣間みることができたのではないのでしょうか。ですから、「色」のことに限らず、まずは、「先入観を捨てて学習する」↓「そこで得た知識を持ち帰り」↓「新たな自分で物事を見る」という学習方法は、非常に大事だと感じています。

イロハ

i r o h a N°4
2018. SUMMER



株式会社 アイワード

<http://www.iword.co.jp>

本 社 〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5番地91
東京営業部 〒101-0065 東京都千代田区西神田2丁目4番3号 高岡ビル6階
札幌工場 〒060-0033 札幌市中央区北3条東4丁目5番地64
石狩工場 〒061-3241 石狩市新港西3丁目768番地4

TEL 011-241-9341 FAX 011-207-6178
TEL 03-3239-3939 FAX 03-3239-3945
TEL 011-251-0009
TEL 0133-71-2777 FAX 0133-71-2895